

# 陸上に人生を賭けた男の話

## ～世界一のマラソン指導者小出義雄

Hの陸上ノートの裏表紙に「大好きな…陸上 大事な…陸上 ステキな…陸上 かっちょいい…陸上 ほれちゃった…陸上 ……陸上 私の大事な大事な…夢の夢の…陸上だから…」と、書き綴ってあった。「命をかけて…」という表現もある。この言葉を見て、陸上の人生を賭けた男の話の思い出したので紹介する。

小出義雄。68歳。あの2000年シドニーオリンピック金メダリストのQちゃんこと、高橋尚子を育てた名指導者である。小出は1992年のバルセロナオリンピックで有森裕子に銀メダルを、1996年のアトランタオリンピックでも有森に銅メダルを獲得させている。世界陸上アテネ大会でも鈴木博美が金メダルを、世界陸上ヘルシンキ大会では千葉真子が銅メダルをとっていることから、女子マラソンのオリンピックの金・銀・銅メダルと世界陸上の金と銅メダルを教え子が獲得したことになるのだ。高橋尚子はベルリンマラソンで当時の世界最高記録も出しているの、その実績は世界一の指導者と言っても過言ではないでしょう。

小出は千葉県佐倉市に、農家を営む長男として生まれた。小さい頃からかけっこが大好きだったと聞きます。ある時に小学校の先生に「おまえ走るの速いなあ。将来オリンピックの選手になれるぞ！」とほめられたことが嬉しくて仕方なくて、さらに走ることにのめりこむようになったそうです。中学・高校と陸上部に在籍し、大学では箱根駅伝という夢があったが、失意の中、家業の農業に従事することになる。それでも陸上の夢を絶ちがたく、彼は一大決心をするのである。ある晩に大きな荷物を持って家出をして、単身東京に出たのである。住みこみの仕事を転々としながら、それでも彼は走ることをやめなかったそうです。当時は「市民ランナー」や「ジョギング」などの言葉などない時代だから、「走っても何のもうけにもならないし、ただ腹が減るだけ…。どこが面白いんだ？」と、まわりの人に変人あつかいされたそうです。何とか学費を蓄え、23歳で順天堂大学に入学。あこがれの箱根駅伝を3回走っている。

大学を卒業後千葉県立の高校教員になり、陸上の指導に熱中する。体育科のある市立船橋高校の時には全国高校駅伝で日本一になっている。その後すぐに教師を退職。オリンピックで世界一になる夢を持って、実業団の指導者となって現在に至るのである。

小出は自らを「酒飲みのへっぽこおやし」と呼ぶくらい、飾らない豪放磊落（ごうほうらいらく）な性格です。高橋尚子に金メダルをとらせるために、アメリカのボルダーの合宿地に多額の借金をして豪華な家を購入したと聞きます。千葉の自分の家を借金の抵当（借金などの保証にあてる財産のこと）にあてたそうで、奥さんはまったくそのことを知らされていなかったとのこと。奥さんは小出の勤めていた高校の陸上部の教え子だった人なので、陸上に対する彼の情熱はよくわかっていたと聞きますが、あまりの彼のクレージーさにあきれかえったこともあるはず。彼の夢の大きさとその実現のためのひたむきさに、結局まわりの人がどんどん巻きこまれていって、小出だけの夢ではなく小出にかかわるみんなの夢に昇華していくのです。いずれにしても大きな夢を実現するためには、多くの人の支えや理解が不可欠なのである。

## スポーツは平和の象徴である！

話変わって、2001年9月11日。世界中を震撼（しんかん）させた米国同時多発テロ。ハイジャックされた飛行機が次々とニューヨークの世界貿易センタービルに衝突。ビルが崩壊していく当時の映像はとてもなまなましく、衝撃的でした。これから第3次世界大戦が勃発（ぼっぱつ）するのではという不安に襲われたものです。当時、10月の下旬にジュニアオリンピックに出場する選手が3人いて、情勢によっては大会の開催ができなくなるんじゃないかなと勝手に心配してしまっただけです。このときに「スポーツは平和の象徴である。」ということ強く思いました。スポーツが思い切りできるためには、まず平和であることが最低の条件になるのです。サッカーの日本代表のイビチャ・オシム前監督も若いときに、故郷の旧ユーゴスラビア（ボスニア・ヘルツェゴビナ）のサラエボが内乱状態にあるときにさまざまな苦勞をしている。その苦勞が彼の指導者としてのサッカー観に強い影響をもたらしていることも有名である。また古い話になるが、1980年のモスクワオリンピックでは、ソ連（今のロシア）のアフガニスタン侵攻に抗議して、アメリカや日本などの国がオリンピックをボイコットする異例の事態となった。平和の祭典であるオリンピックに政治が介入する悪例で、その時の選手の落胆ぶりを見て、選手がかわいそうで仕方なかったものです。いずれにせよ、平和の上にスポーツがあるのは間違いのないところでしょう。

「大きな夢を持って！」といつも、先生は君たちに教えています。陸上の大きな夢があるとします。とにかく、毎日の生活の中で最優先に考え、第一に実行するのが陸上になるとします。ただ、その夢実現のためだけに熱中するあまり、あとのことが全部いいかげんになってしまったらどうでしょうか。もっと、わかりや

すく言いましょう。陸上はとことんやるけど、勉強やクラスのことはまったくしないとか、人のことを考えず、わがままな振る舞いで人に迷惑をかけてばかりいる…。もしこんな人がいたら、まわりのみんなは誰も応援してはくれないでしょう。夢を実現するためには、まわりの人の理解が不可欠なのです。夢を実現する道のりで、その人が本当に輝いていれば、陸上に関係のない人でも魅力に感じてもらえることでしょう。そうになると、いつしか夢を共有する間柄や仲間になったりします。いくら自分がかんばろうと思っても、陸上がいっしょにできる環境でない人もいます。学校に陸上部のない人もいます。そんなことを考えていくと、今の自分がどんなに恵まれているかわかるでしょう。だから、いつも感謝の気持ちを持つことが大切なのです。毎日、食事ができること。家の布団で寝られること。日本が平和であること。今まで当たり前すぎていたことにも、考えてみれば感謝、感謝です。今、自分が走れることの喜び、まわりの支えがある感謝の気持ちなどがすべて夢実現のためのエネルギーになるのではないかと考えています。